

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	はるgrow		
○保護者評価実施期間	R7年 10月 27日 ～ R7年 11月 10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33 (回答者数)	27
○従業者評価実施期間	R7年 10月 27日 ～ R7年 11月 10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 12月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	担当は決めているが、支援者を固定せず誰が入っても対応できるよう、子どもや支援じよ情報共有を行っている。	子どもの基本情報や学習・生活・行動・対人面等、全般的な様子から課題や目標を定めたり、ストレングスを活かした支援のアイデアを出し合うミーティングを行ったりしている。	ミーティングに他事業所の職員や有識者にも参加してもらい、支援の幅を広げていく。
2	問題行動が減り、好ましい言動が増えるよう、行動療法に基づいて介入している。	好ましい行動を強化、うまくいかないことは振り返りを行い、様々な方法を試している。	外部からのスーパービジョン。
3	SSTや集団活動の工夫。	<ul style="list-style-type: none"> ・PEERSに基づいた友達作りのSSTの継続。 ・集団活動の内容をあえて月単位で立案せずに子どもの様子に合わせたその時々のをねらいを定めて行っている。 ・集団リーダーのローテーション。 	子ども一人一人に合わせたねらいの設定と支援者間の共有。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	不在となる職員がいる場合、職員数が少なくなる。	配置数を下回ることはないが、こどもの状態に応じて職員が必要になる場合がある。	こどもが安心・安全に過ごせるように他事業所からのヘルプを依頼する。
2	室内での運動が限られる。	運動をするには室内が狭い。	<ul style="list-style-type: none"> ・晴れた日はグラウンドや駐車場の安全なスペースを活用している。 ・室内では事業所全体にいくつかのブースを設け、様々な運動遊びに分散して取り組めるようにしている。
3	個室が足りない時がある。	個室が少ない。	パーティションで区切ったり、荷物の部屋や着替えの部屋も支援で使用している。